

## 8. 図書館及び図書・電子媒体等

### 目標

1. 本学の教育理念・教育目標・教育目的を達成するため、図書・学術雑誌・視聴覚資料及び電子媒体等の体系的及び量的整備に努める。
2. 教職員・学生など図書館利用者に対する利用サービスの維持・向上に努める。
3. 地域開放に努める。

(1) 本学では、附属世田谷図書館（平成 17 年 4 月開設）及び附属五反田図書館（平成 18 年度 4 月開設）を設置しており、本学の設立の趣旨及び教育理念・教育目標を達成するため次のとおり図書館の整備・維持及び学術情報提供システムの整備充実を図ることとしている。

#### ① 蔵書の充実。

本学の学部及び大学院教育に必要な内外の図書、学術雑誌、視聴覚資料、電子媒体を収集し、蔵書の充実を図る。

#### ② 施設・設備の整備。

十分な閲覧席の確保、書庫の整備及び利用しやすい資料配架を図る。

#### ③ 利用者サービスの向上、ネットワーク化の推進及び WEB サイトの充実。

- ・ 学生の情報リテラシー（蔵書検索、レファレンスブックの活用、各種データベースの検索、図書館ホームページの活用）能力を高める。
- ・ 入館者数、図書・学術雑誌等の貸出冊数、データベースアクセス件数及び図書館間相互利用件数の増を図る。
- ・ 図書館の WEB サイトについては、図書館利用に役立つコンテンツの充実を図る。

#### ④ 本学に関する情報（各種メディア媒体）を大学本部に提供する。

大学本部からの指示キーワードについて、各種メディア情報を正確・迅速に提供する。

#### ⑤ 図書館の地域への開放。

大学の使命である社会貢献・地域貢献を推進するため、本学図書館の利用に関する地域開放の拡充を図る。

(2) 図書、学術雑誌、視聴覚資料及び電子媒体等の教育研究上必要な資料の体系的及び量的整備について

「現状及び点検・評価」

- ① 図書館資料は、医療、栄養、健康、食品、福祉、情報、衛生、教育・教職等に関する専門分野及び教養分野の資料等 52,698 冊を所蔵している。
- ・看護学科の専門図書の多くは附属五反田図書館に配架されている。
  - ・分類法は、国内の図書館で広く利用されている NDC（日本十進分類法）を採用している。
  - ・看護の図書の一部は、NDC 記号と日本看護協会看護学図書分類表の記号を付与し、開架式で整備をしている。
  - ・参考図書は、0 類（総記）から 9 類（文学）まで、約 3,150 冊の基本図書を所蔵（青葉学園短期大学図書館蔵書を引継ぐ）している。
- ② 収書については、各学科の図書館委員会委員を中心に、学科教育の指針に基づき購入図書の選書を行っている。
- ・選書の補助資料として、「ウィークリー出版情報」を各学科に配布すると共に、各学科の購入申込方法を簡素化（図書館には、ISBN（国際標準図書番号－10 ケタ数字）と書名を記載し、メールで送付）すると共に、図書館での発注方法も改善し、迅速な資料組織化を図るようにした。
  - ・大学の方針で、各年度の図書館資料の購入については、年度初めに、各学科と図書館が経理財務部に図書館資料費等を計上し予算が決定される。
  - ・図書館では、各学科に関連する専門図書、参考図書及び教養図書等を専任司書が選書し、ゼミ、卒業研究、各種資格試験問題集及び就職対策等の図書は複数購入しており、授業計画（シラバス）に示されている推薦図書やテキスト、学生及び教職員からの購入希望図書も購入している。特に、国家資格試験の受験に対応するため、相当数の副本を準備し、貸出に対応している。また、教員の個人研究費による図書等については、予算内で随時受け付けている。
  - ・看護学科は学外での施設で看護実習を長期間にわたって実習する教育課程を組んでおり、実習施設で学習するための図書が必要となるため看護学科の図書館委員会委員と図書館が協議して、図書の扱い及び管理方法の申し合わせを行って運用している。

表 49 図書館資料費

図書館名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
附属世田谷	19,597 千円	22,144 千円	18,549 千円	8,384 千円
附属五反田	—	7,628 千円	25,755 千円	19,828 千円
合計	19,597 千円	29,772 千円	44,304 千円	28,212 千円

- ③ 学術雑誌（469 種類（和雑誌 341 種類、洋雑誌 128 種類））については、学術雑誌の選定基準（各学科の購読希望が基本）に基づき購入している。

- ・ 継続購入及び新規購入に関しては、利用状況・貸出状況を各学科の図書館委員に報告すると共に、各学科と図書館が協議して年1回、見直し作業を行っている。
  - ・ 製本雑誌は、手動集中書架に開架雑誌と同様な配架で自由に閲覧できるようにしている。
- ④ 視聴覚資料（1,845点を所蔵）については、学生及び教職員が常時利用できるように視聴覚コーナーに配架している。
- ・ 視聴覚資料の館外貸出は、著作権者に許諾を受けなければ貸出しができないため、平成17年度以降購入した分は、購入時に許諾を得て著作権処理済のビデオの貸出しを行っている。特に、看護学科では、実習の教材として頻繁に活用するビデオがあるため、セットものでも複数購入している。
  - ・ ビデオ、CD及びDVDの予約制を導入するとともに、館内にAVコーナーを設けて、各学科の枠を超えた利用に応えている。
- ⑤ 電子媒体の電子ジャーナルは、1,104種類が利用できるようにしており、有料データベースとして医中誌WEB、J-DreamⅡ、メディカルオンラインライブラリー、聞蔵Ⅱ（朝日新聞オンライン記事データベース）、日経テレコン21、系統別看護師国家試験問題＋保健師国家試験問題WEB法人サービスの6種を導入している。
- ・ CiNii、NACSIS Webcat、国立国会図書館蔵書検索システム（NDL-OPAC）、国立国会図書館雑誌記事検索、PubMed、J-STAGEも導入しており、LAN上からの接続を前提とし、図書館内だけでなく各教室及び各研究室からの利用も可能としており、利用度の高いものについては、複数同時接続を可能にしている。
- ⑥ 両図書館が所蔵している図書館資料の利用に当たっては、スクールバス便（世田谷キャンパスと五反田キャンパスを1日1往復）を活用して、その日のうちに利用者に提供するようにしている。
- ⑦ 各学科の専門の図書館資料の選書は、学科要求の予算のもと、学科単位で全ての教員が関わって進められ、特定主題に偏るのを防止し、教員の選定眼を収書に反映させており、図書館は各学科に共通する図書、参考図書及び教養図書等を集中的に収集するよう努めているが、今後、各学科専門資料の更なる量・質面での充実を図る必要がある。

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

- ① 文化情報資源の維持と発展には、継続性が重要である。高度情報化社会において、図書館は歴史的転換点にあり、従来型の図書館機能と電子図書館機能のどちらを優先的に発展させるかの検討が行われている。本学図書館は、当面両者を有機的に結合した図書館を目指す方向で整備を進めている。各学期開催の図書館委員会でも継続的に検討する。

- ② なお、本学は開学時に青葉学園短期大学（平成 18 年 3 月閉校）の蔵書を引き継いでいるが、その蔵書の「情報館 AL」（図書館管理システム）への登録など、実在の図書館資料との整合性が不十分である。開館時に BDS（Book Detection System）を導入していなかったことから、多くの蔵書にタトルテープが付与されていないため対策が必要であった。そこで対策作業の経費・時間等を算出するデータの一助として、附属世田谷図書館は、平成 20 年の夏期期間中の勤務において、約 2,500 冊にタトルテープを付与した。このデータを基礎に解決方法を考えと共に、蔵書点検を行う必要がある。

### (3) 図書館施設の規模及び機器・備品の整備状況について

#### 「現状及び点検・評価」

- ① 附属世田谷図書館及び附属五反田図書館の施設概況は次のとおりである。
- 世田谷図書館は、本館地下に位置し、専有延床面積 914 m<sup>2</sup>、収蔵能力 53,000 冊数、座数 84 席である。
    - ・ 閲覧机として 6 人掛け、4 人掛け、1 人掛け席が備わっている。
    - ・ AV コーナーには、ビデオ・DVD の視聴のために 5 台の機器を備えている。
  - 五反田図書館は、本館 3 階に位置し、専有延床面積 227 m<sup>2</sup>、収蔵能力 20,800 冊数、座数 72 席である。
    - ・ 閲覧机として 8 人掛け、6 人掛け、4 人掛け、1 人掛け席が備わっている。
    - ・ AV コーナーには、ビデオ・DVD の視聴のために 7 台の機器を備えている。
  - 両図書館入口には、BDS（Book Detection System）を設置し（附属世田谷図書館は平成 17 年 10 月、附属五反田図書館は平成 19 年 4 月）、所持品等の持ち込みを可能としている。
  - 両図書館は、専門業者作成の「書架案内」（資料の配架場所等）により、スムーズな資料への誘導がなされている。
  - 両図書館には、蔵書検索用・情報検索用として、パソコンが設置されているが、学生・教職員については、各自パソコンを所有していることから利用上の支障は生じていない。
- ② 図書館の業務システムとして、「情報館 5.0」から「情報館 AL」に、平成 17 年 10 月移行した。これを契機に国立情報学研究所の NACSIS-ILL に参加し、また、NACSIS-CAT（目録所在情報サービス）の利用を開始している。なお、平成 21 年 10 月から「LIMEDIO」（図書館情報管理システム）[(株)リコー]を導入し、円滑な利用を図ることとしている。
- ③ 附属図書館ホームページの運用は、本学ホームページの一部として運用しており、ホームページ上では、蔵書検索をはじめ、利用案内、開館日カレンダー、各種データベース及びリンク等を利用することができる。

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

図書館の業務システムについては、「情報館 AL」(図書館管理システム)を導入していたが、販売先の(株)ブレインテックが民事再生計画により、サポート契約の継続が不可能となったため、新たなる図書館情報管理システムである「LIMEDIO」[(株)リコー]を導入し、更なる学術情報ステーションを実現させる。

- (4) 学生閲覧室の座席数、スタッフ数、年間開館日数・時間、年間利用者数、年間貸出冊数及び図書館ネットワークの整備等の状況について

#### 「現状及び点検・評価」

- ① 附属図書館の利用概況は次のとおりである。
  - ・ 両図書館の学生閲覧座席総数は、現在 156 席であり、試験期間中は 1 人掛け机を利用するため並んで開館を待つ光景が見られる。
  - ・ 開館時間は平日午前 9 時～午後 8 時（土曜日午前 9 時～午後 5 時）である。平日の午後 5 時以降と土曜の午前 9 時～午後 5 時までの勤務は、図書館員 1 人の勤務である。試験期間中は、若干早めの開館を行っている。
  - ・ 附属世田谷図書館は、業務委託者 2 名が配置され、附属五反田図書館は、業務委託者 4 名による運営である。
  - ・ 平成 20 年度の図書館の利用者数は、年間延べ総入館者数は 89,173 人であり、少しずつであるが伸びている。
  - ・ 年間貸出し冊数は、附属五反田図書館が学生数の割合からみて順調に伸びている。
- ② 学生・教職員は、図書館ホームページから、蔵書検索 (OPAC)、情報検索及び電子ジャーナル等の利用を行うことができる。また国立情報学研究所のデータベース検索が行えるようになり、より一層の利用者サービスの充実を図っている。
- ③ レファレンス・サービスは、閲覧カウンターを中心に所蔵調査、文献複写、図書館相互利用及び他の図書館への紹介状作成等を行っている。
- ④ 新入生への図書館オリエンテーションは、全新生を対象に学科単位で、基本的な図書館利用ルール、文献の探し方、蔵書検索 (OPAC) 及びデータベース等についての説明を行うとともに、1 組 25 人程度による図書館ツアーも実施している。
- ⑤ また、1 学年前期に履修する全学科共通の必修科目においては「情報リテラシー」の授業科目を開講し、図書館活用法や情報検索法 (データベース検索) に関する授業を行ってきた。図書館利用及び情報に関する興味関心を高める方策を推進していることは評価できる。

表 50 学生閲覧室等（平成 21 年 5 月 1 日現在）

図書館名	学生閲覧室座席数（名）	学生収容定員（名）	収容定員に対する座席数の割合（%）
附属世田谷	84	720	11.7
附属五反田	72	467	15.4
合計	156	1,187	13.1

「今後の改善・改革に向けた方策」

図書館利用に関する教職員及び学生からの相談は適切に行われており、今後も、資料の選定及び収集等利用者のニーズに応じたサービスの提供に留意する必要がある。

(5) 図書館の地域開放の状況について

「現状及び点検・評価」

- ① 附属図書館においては、開学当初から NTT 東日本関東病院図書館との間で相互利用の協定を締結しており、教職員及び学生の円滑な利用が図られている。
- ② 初めての卒業生・修了生や退職教職員に図書館の利用を認め、また、閉校となった青葉学園短期大学の卒業生・教職員及び NTT 東日本関東病院附属高等看護学院の卒業生・教職員についても図書館の利用ができるようにしている。
- ③ 地域開放の取り組みとしては、開学当初から世田谷区教育委員会との連携及び教育活動等支援事業の推進を図っているが、新たに、世田谷区教育委員会と覚書を締結し、平成 20 年 10 月から、20 歳以上の世田谷区民であって世田谷区立図書館の利用登録者については、本学が定める利用手続きにより附属世田谷図書館を利用することができることとしたことは評価することができる。
- ④ 世田谷近隣の本学に興味をもつ高校生に、夏期期間中の附属世田谷図書館の利用を認めている。

「今後の改善・改革に向けた方策」

大学の使命である社会貢献・地域貢献を推進するため、今後も地域に開かれた大学として図書館利用の拡充を図るよう努力する。

(6) 学術情報の処理・提供システムの整備状況及び他大学との参加協力の状況について

「現状及び点検・評価」

- ① 蔵書検索システムの整備は、図書館管理システム（「情報館 AL」）により、館内資料は全て、コンピューター検索ができるように整備しており、図書館の検索端末だけでな

く学内 LAN を利用することにより図書館以外の場所からの検索が可能である。また、蔵書は本学のホームページ上でも公開しており、学外からでもインターネット等により広く蔵書検索ができる環境を整えている。なお、図書館機能と電子図書館機能を有機的に結合した図書館を目指す方向として、利用が多い冊子体資料については、データベース（系統別看護師国家試験問題＋保健師国家試験問題 WEB 法人サービス等）を積極的に導入し、利用者の利便性を図るよう努力している。

② 情報の検索システムとして、医中誌 WEB、J-DreamⅡ、メディカルオンラインライブラリー、聞蔵Ⅱ（朝日新聞オンライン記事データベース）、日経テレコン 21、CiNii、NACSIS Webcat、国立国会図書館蔵書検索（NDL-OPAC）、国立国会図書館雑誌記事検索、PubMed、J-STAGE の各サービスを提供している。

③ 文献複写・現物貸借サービス利用は、教育研究を支える上で不可欠であることから、他大学・機関との間での文献複写サービスを実施している。

（表 51 文献複写件数）

④ 他大学・関係団体との図書館ネットワークへの参加協力では、日本図書館協会、私立大学図書館協会及び日本看護図書館協会などの各種団体に加盟し、関係機関との連携を重視し、研修会にも積極的に参加している。特に国立情報学研究所との間では、NACSIS-CAT に所蔵情報を登録し、同システム参加館との相互利用を可能としている。

表 51 文献複写件数

【学内 → 学外へ依頼】

図書館名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
附属世田谷	422	12	41	28
附属五反田	—	281	395	346
計	422	293	436	374

【学外 → 学内へ依頼】

図書館名	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
附属世田谷	0	14	7	0
附属五反田	—	0	0	0
計	0	14	7	0

「今後の改善・改革に向けた方策」

学術情報の処理・提供システムの整備状況としては、蔵書検索システムの整備が中核となって学内外からの利用に対して利便性を持っており、また、データベース利用面では、種類・アクセス数の面で年々利便性の向上を図っているが、今後もその充実を図る必要がある。